

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙 1 章 19~23 節>

人には同じ状況を悪い方取る人と良い方取る人の二通りあるようです。信仰を持ったら？ 後者になっていくはずの理由を考えます。

①「神様の力」に目を注ぐ！

信仰者になっても皆一様に楽観的になるわけではありません。どこまで神様を信じ切るかの違いによって分かれてきます。しかし、ただ闇雲に神様を信じるのが聖書の信仰ではありません。「**私たち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力を悟らせて下さるように**」と祈る 19 節は、ギリシア語で「力」を意味する異なる単語を 3 つも用いて、私たち信仰者に働いて下さる神様の力の大きさが尋常ではないことを伝えようとしています。私たちが何も恐れる必要が無いほどに、私たちに働く神様の力が大きいから、私たちは楽観的になれるのです。しかしなぜそのように神様の力を信じられるのでしょうか？

②イエス・キリストを復活させた「神様の力」に目を注ぐ！

「**神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ**」(20)、と続けています。神様はイエス様の死を打ち破り、復活させられたのです！ 全ての終わり、絶望の果てを意味する死。その死が打ち破られる！ キリスト教信仰においては、このことはとても重要な意味を持っています。死を打ち破る — 神様はこのことに「私を信じなさい」という理由を示されたのです！ このことを信じる、それが聖書の信仰を持って生きることの始まりであり、具体的には洗礼を受けてその第一歩が始まるのです。

③世界を今も、これからも、治め給う主を確認できる場、教会！

「**天において御自分の右の座に着かせ**」(20)は、即位した王に神様が地上の全権能を委ねられたことを意味する表現です (詩編 110 : 1)。今も、これからも、世界は昇天された主イエスの下にあるのです！ しかしその完成はまだ来ていません。私たちはこの「既に」と「未だ」の間にある世界で信仰者らしく生きる使命が与えられているのです。そこで大事なことが 22~23 節に記されています。教会が「**主の満ちた場**」として与えられているということです。この教会の意味を自分の信仰の中にしっかり据えていく中で、真の楽観主義者に変えられていくのです！